

元英兵捕虜 傷癒やす旅

原爆資料館など訪問

太平洋戦争中にアジア各地で旧日本軍の捕虜となり、過酷な収容所生活を強いられた元英国兵のウィリアム・マンデイさん(93)と、遺族の男性3人が3日、長崎市の長崎原爆資料館や平和公園を訪れ、日英の平和友好を願った。

ロンドンの慈善団体「アガベ・ワールド」代表の恵子・ホームズさん(66)とロンドン在住の引率。恵子さんは、1992年から日本に憎しみを抱いている元捕虜や遺族を日本に連れて

きて、相互理解を通じた和解活動が続けている。

マンデイさんは42年2月にインドネシア・ジャワ島で捕虜になり、飛行場建設に従事させられたほか、シンガポールでトンネル工事をさせられた。粗末な食事や飲み水不足…。日本語の点呼を間違えて看守に殴られたこともあったという。

マンデイさんは原爆について「投下されなければ私は生き残れなかったかもしれない。それが戦争の悲劇であり、平和であれば原爆

93歳マンデイさん「若者は戦争知って」



平和公園を訪れた元捕虜のウィリアム・マンデイさん(左)と恵子・ホームズさん

は必要ない」と複雑な心境を語った。そして「日本の若者に戦争で何が起きたのか広く知ってほしい。日英は互いに協力しながら未来を築くべきだ」と話した。

一行は京都や英兵捕虜墓地がある三重県熊野市を訪問し、中学生と交流する。平戸市も訪問予定だったがマンデイさんの体調を考慮し、今回は見送った。